

令和7年度 職員アンケートの結果について

1 回答した職員について

- ・横浜氷取沢高等学校の教職員、12名。

2 質問内容について

グローバル教育に関するアンケート12問を令和8年3月に実施した。質問内容については次の通りである。

なお、質問内容については、令和4年度から令和6年度に実施したものと、ほぼ同様のものとした。

(1) 次にあげる教育活動は、グローバル教育人材の育成やグローバル教育の推進に役立っていると思うか。

- ・英語の学校設定科目「コミュニケーションスキルズ」の設置と少人数教育
- ・英語プレゼンテーションコンテスト
- ・韓国、オーストラリア、ニュージーランド、フィリピンの姉妹校等交流
- ・グローバル講演会（本校教員による講演会／花王社員による講演会／外務省職員による講演会）
- ・実用英語技能検定の1次試験会場
- ・GTECの受検
- ・大学の外国人留学生との交流
- ・英語ディベート交流（令和7年12月22日に実施）

(2) グローバル教育人材の育成やグローバル教育推進のための教育活動として実施したい取組について具体的に記述する。【任意回答】

(3) 「グローバル教育研究推進校」の取組の1つとして、グローバル人材の育成に向け、全教科共通のテーマ、「多様な文化や価値観の存在に気づき、相互理解の大切さを学び、他者への関心や共感力を育てる指導の研究」を設定したが、この校内授業研究のテーマについて、授業の中で取組むことができたか。

(4) (3) に基づき取組んだ校内授業研究を通じて、自分の授業にフィードバックする内容があったか。

(5) 電子黒板を活用した授業について、どのくらいの割合で実施しているか。「電子黒板を活用した授業」とは、電子黒板が設置されている教室において1回の授業で板書や口頭説明もあわせて活用した授業も含める。

(6) 電子黒板を活用することによって、「生徒が主体的に学習する活動」が増えることが期待されている。生徒の主体的な取組が増えたと思うか。

(7) 電子黒板を活用することによって、「生徒のグループ協働学習の活動」が増えることが期待されている。生徒のグループ協働学習の取組が増えたと思うか。

(8) 授業中の生徒の活動でタブレット端末をどのくらいの割合で利用しているか

(9) ロイロノートを活用した授業の中で、どのくらいの割合で利用したか。

(10) ロイロノートを活用した項目を次の中から回答する。【複数回答可】

- ・ 生徒への資料・動画等の配信
- ・ 生徒からの課題の提出
- ・ 生徒からの回答の提出
- ・ 生徒の回答の共有
- ・ プレゼンテーション
- ・ シンキングツール
- ・ カメラ・録音機能の活用
- ・ その他【自由記述】

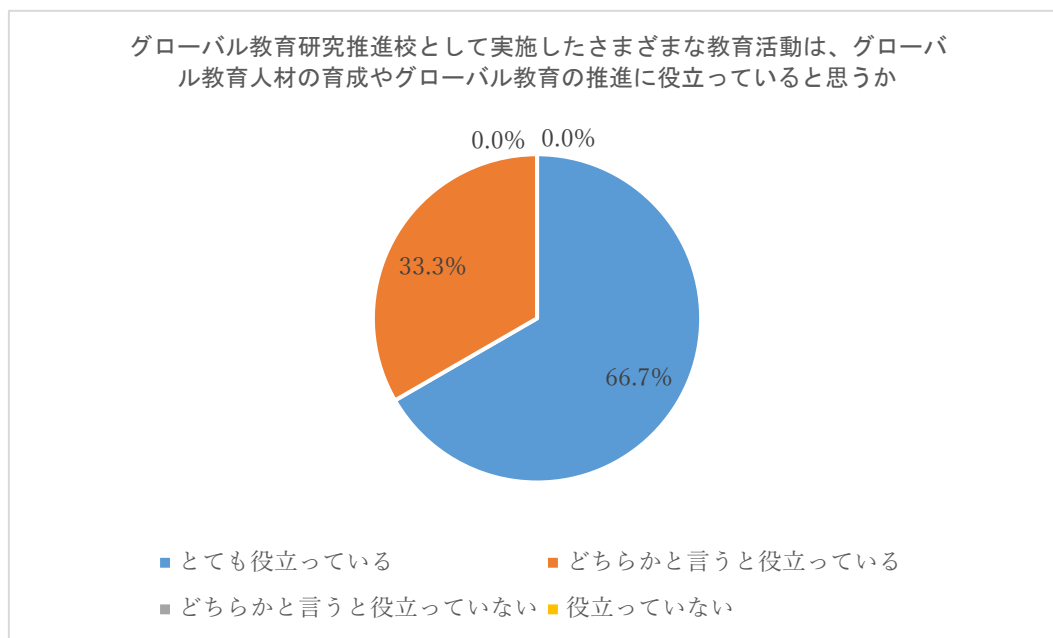
(11) タブレット端末を活用することによって、「生徒が主体的に学習する活動」の時間が増えることが期待される。生徒の主体的な取組が増えたと思うか。

(12) タブレット端末を活用することによって、「生徒のグループ協働学習の活動」が増えることが期待される。生徒のグループ協働学習の取組が増えたと思うか。

(13) 電子黒板やタブレット端末を活用した授業が、生徒の学力育成に対して、どのような影響があると思うか。【任意回答】

3 回答結果について

(1) 「グローバル教育研究推進校」として実施したさまざまな教育活動は、グローバル教育人材の育成やグローバル教育の推進に役立っていると思うか。

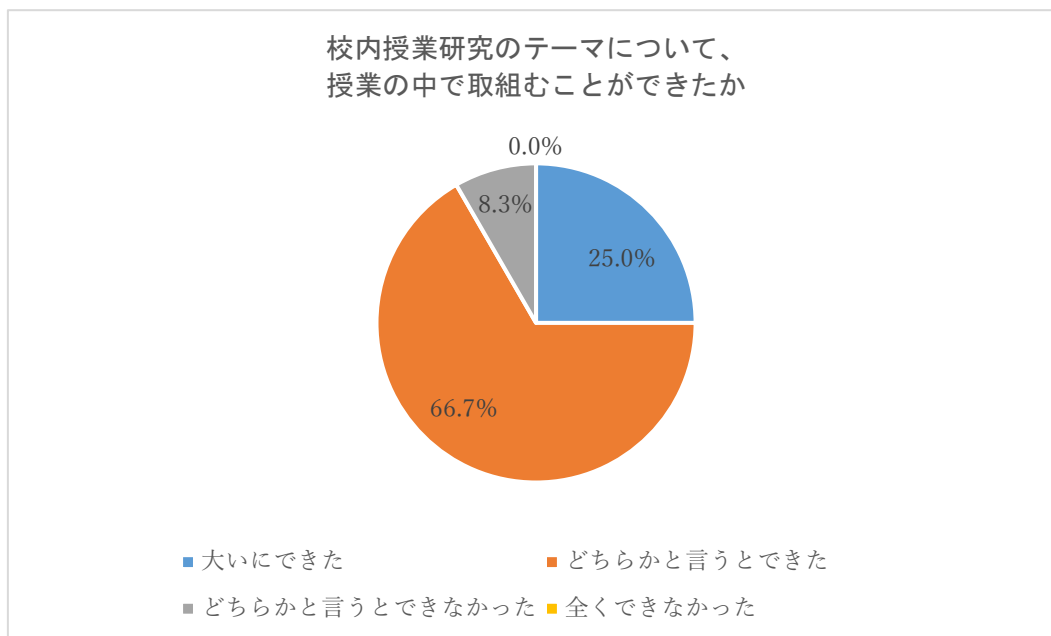


(2) グローバル教育人材の育成やグローバル教育推進のための教育活動として実施したい取組について具体的に記述する。任意の回答であったが9名から回答があった。

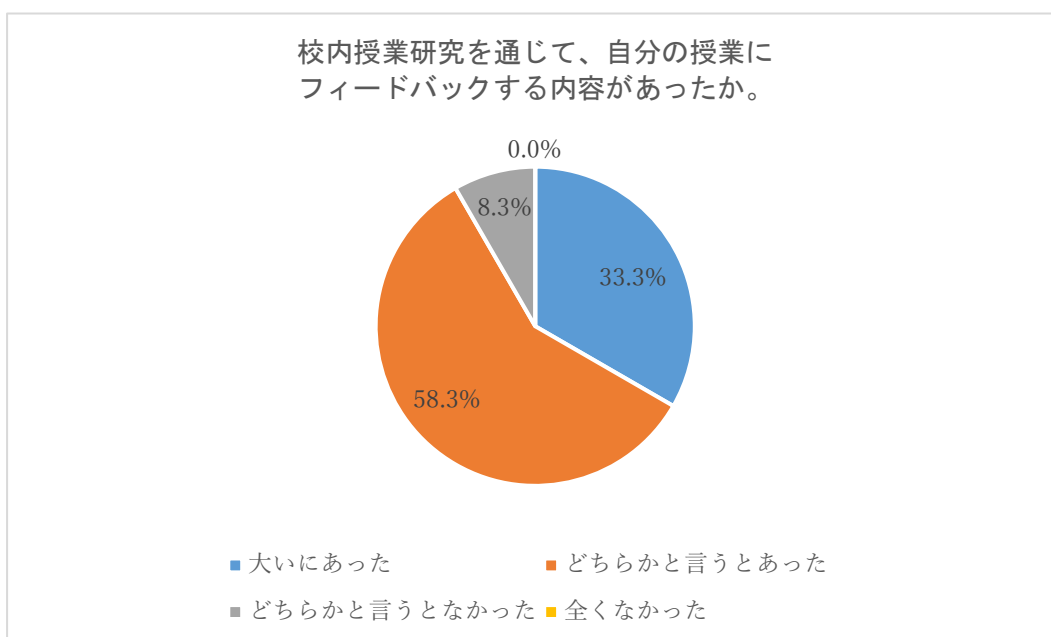
- ・新規では特になくむしろ絞って、既存の取り組みの質を上げる方がよいと感じる。
- ・教科横断的な授業実践を行う。
- ・英語で何かを教える、英語で何かを教わる、という経験
- ・海外で実際に働いている方の話などを聞ける機会があるとよいと思う。この理由としては、それぞれの国の文化や共同的に働く時に意識している具体的なことなどが理解できると良いとかがえるため。
- ・グローバル教育研究推進校の教職員や生徒との交流
- ・総合的な探究の時間の発表内容を外国の人（日本に来ている留学生など）と共有し、ディスカッションをする活動

- ・外部との交流の機会を増やす。「海外」に縛られることなく、同年代の高校生と考えを交換し合う機会がもっと増えてもよいと思う。全く異なる文化に生きている人と交流して違いを感じるのは当然で、ある程度同じ条件にいる人との違いに触れることも「多様さ」という言葉の意味を考えるうえでは重要だと考える。また「同じ地域の高校生がこのようなことに取り組んでいる」と実感できれば、生徒にとっては意義のある活動になると考える。
- ・交流をより有意義にするために、言語能力や表現力、マナー、自己や自文化への理解度の底上げを図るべきと考える。これは具体的な取組みをすぐに挙げることはできないが、学校全体で指導するべきと考える。
- ・本校の教育の根幹の部分にグローバル教育があるのなら、「総合的な探究の時間」はグローバル教育に含まれると考える。来年度からすぐにできることではないが、現在の「総合的な探究の時間」の授業の進め方は、進路支援グループの一人に大きな負担がかかっており、グローバル教育研究推進グループが授業の軸を決め、その軸をもとに学校全体で運営していくやり方が理想的だと考える。
- ・現在の「楽しさを動機にする」取組みはどれも素晴らしいと考える。欲を言えば授業を削る（あるいは、授業にしつかりと取り込む）形での本格的国際教育を展開すること。また、それを英語活用と平行して展開していくことができれば、なおすばらしいと思われる。そのためには、職員全体のリテラシーの向上も必要なため、NHKのBSのドキュメンタリー番組や、報道番組を職員の研修会として視聴するなど、真剣な研修への取組みが必要になると思う。
- ・職員研修テーマは、17 GOALS や 169 Targets だけでもない、進化学的な視点やグローバルイズムによりあまりにも複雑化した現代の世界を世界史的に読み解いたりしたり、様々な教える側のリテラシー研修が欠かせないように思われる。AI 兵器問題、データセンターのエネルギー消費問題、AI のためのデータ蓄積労働の問題、武器商人への投資問題、宗教と社会との関わりの問題など、様々な課題を認知すれば、このグローバル化を強制された世界において英語を活用して対話をする必然性が生徒たちにも見えてくるはずで、このような中から、国際機関や NGO への進路を考え始める生徒たちを育成できれば、グローバル教育研究推進指定に応えられると考える。
- ・外国人留学生が本校に来て講演会を行う。

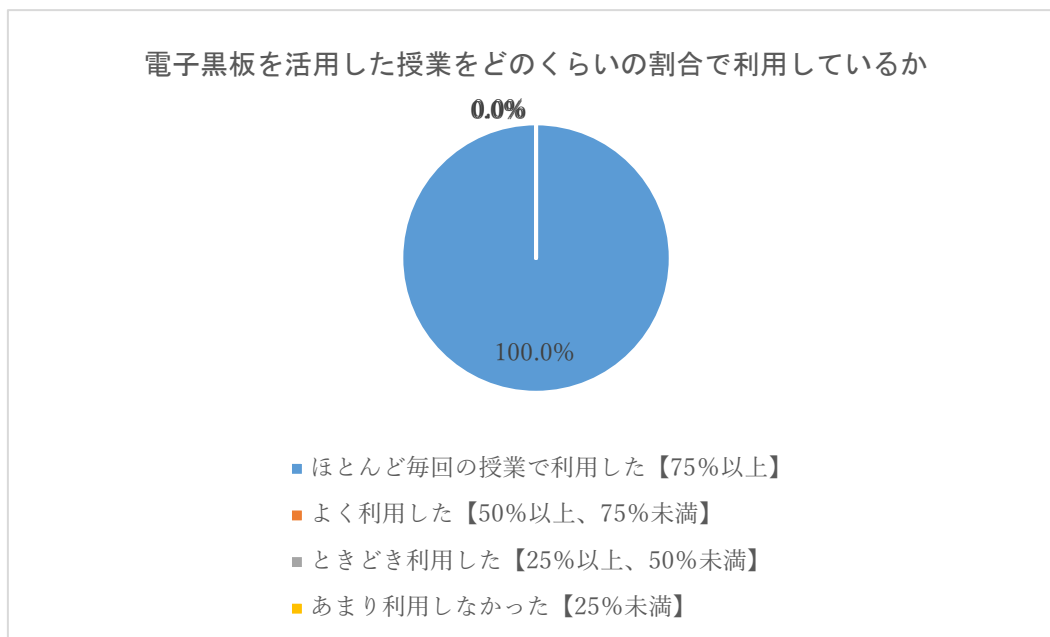
(3)「グローバル教育研究推進校」の取組の1つとして、グローバル人材の育成に向け、全教科共通のテーマ、「多様な文化や価値観の存在に気づき、相互理解の大切さを学び、他者への関心や共感力を育てる指導の研究」を設定したが、この校内授業研究のテーマについて、授業の中で取組むことができたか。



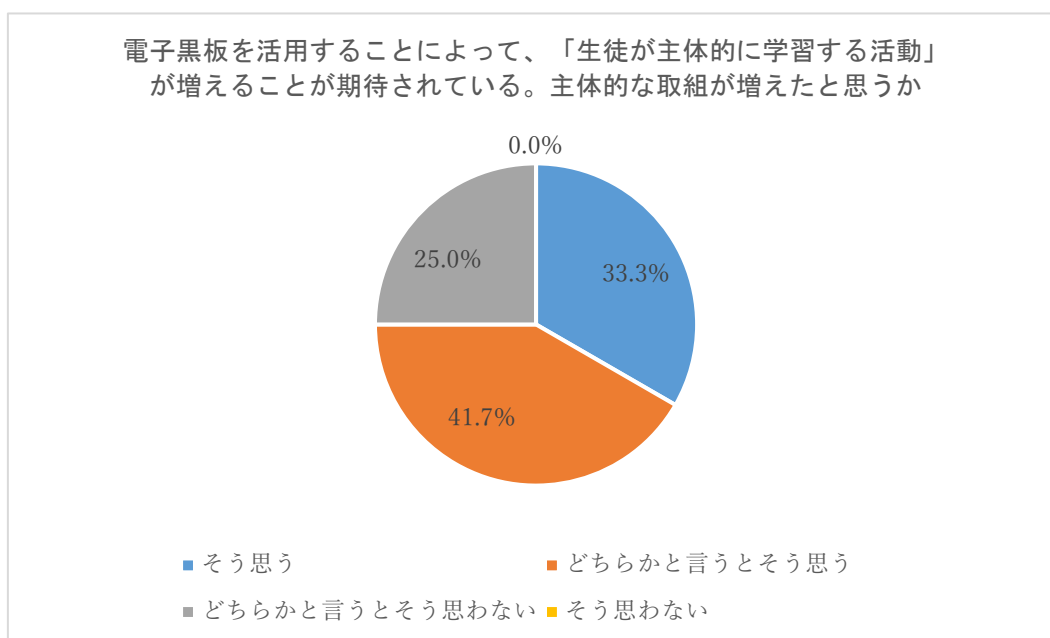
(4) 校内授業研究を通じて自分の授業にフィードバックする内容があったか。



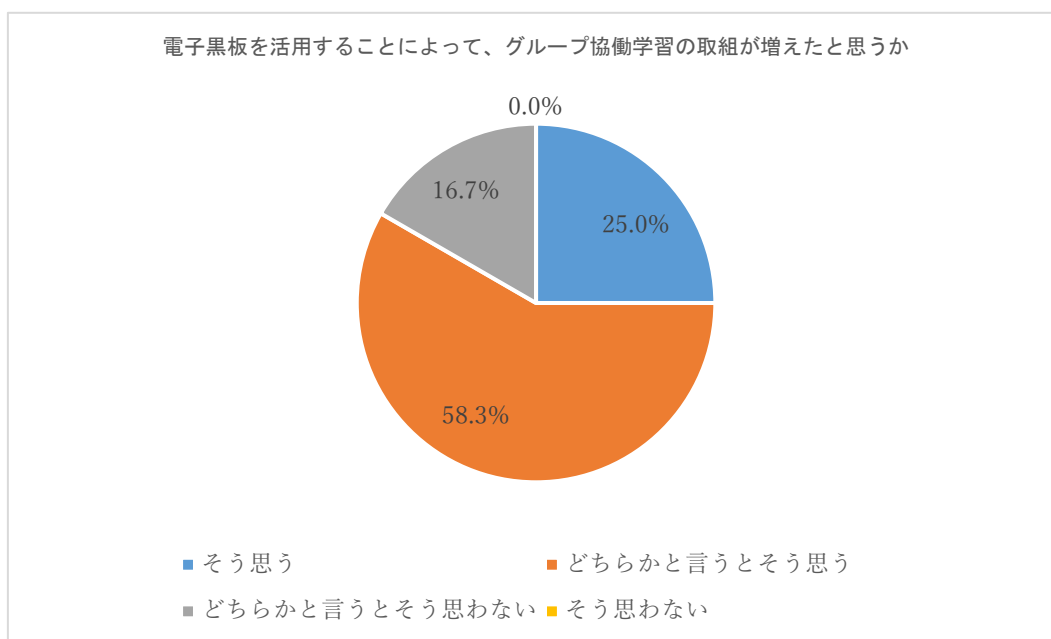
(5) 電子黒板を活用した授業について、どのくらいの割合で実施しているか。



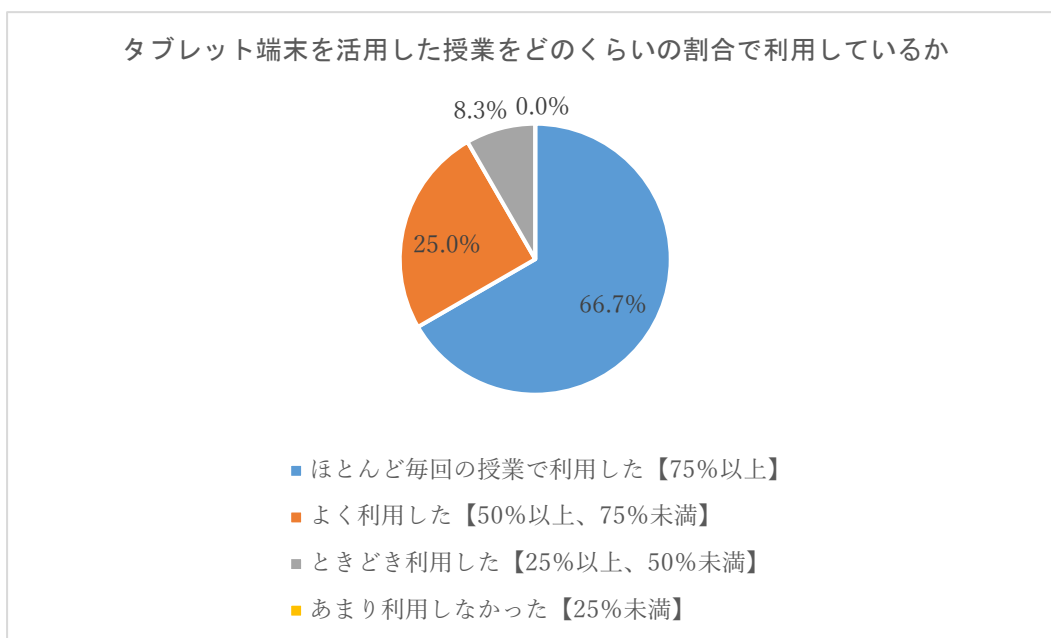
(6) 電子黒板を活用することによって、「生徒が主体的に学習する活動」が増えることが期待されている。生徒の主体的な取組が増えたと思うか。



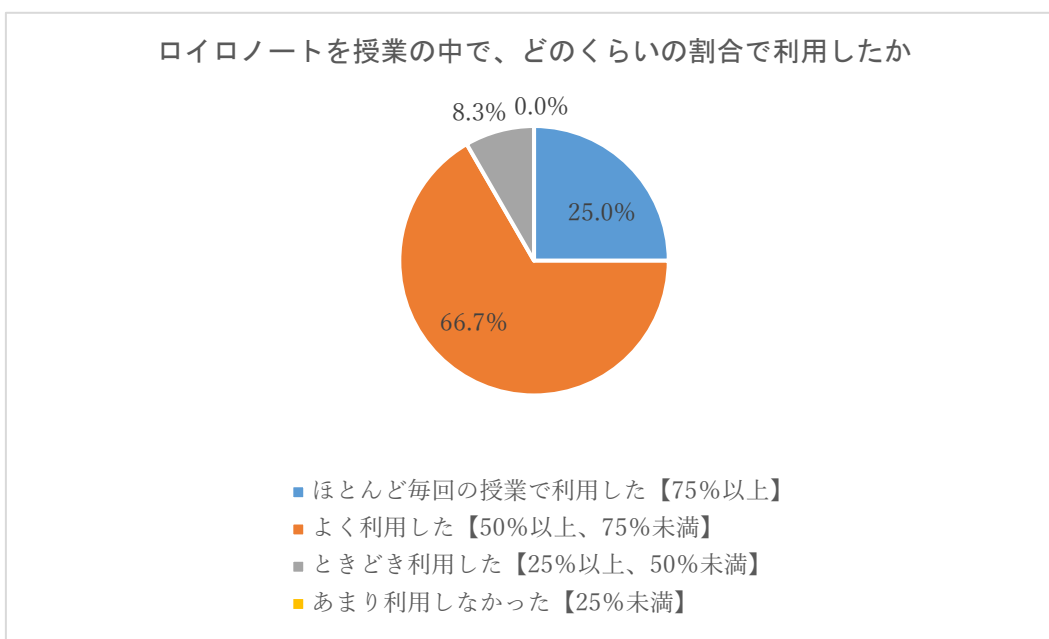
(7) 電子黒板を活用することによって、「生徒のグループ協働学習の活動」が増えることが期待されている。生徒のグループ協働学習の取組が増えたと思うか。



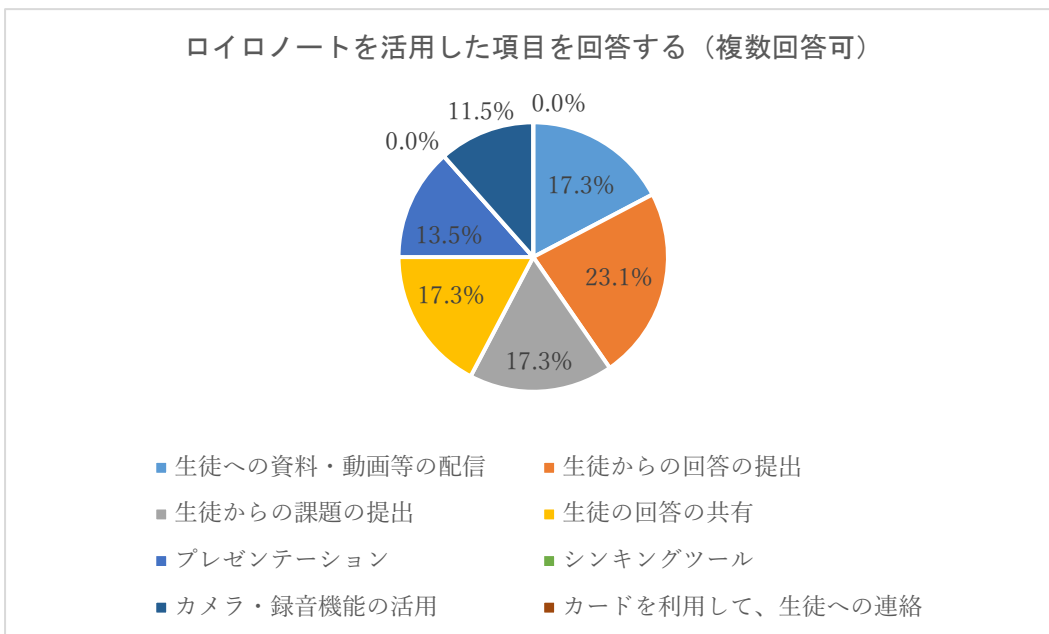
(8) 授業中の生徒の活動でタブレット端末をどのくらいの割合で利用しているか。



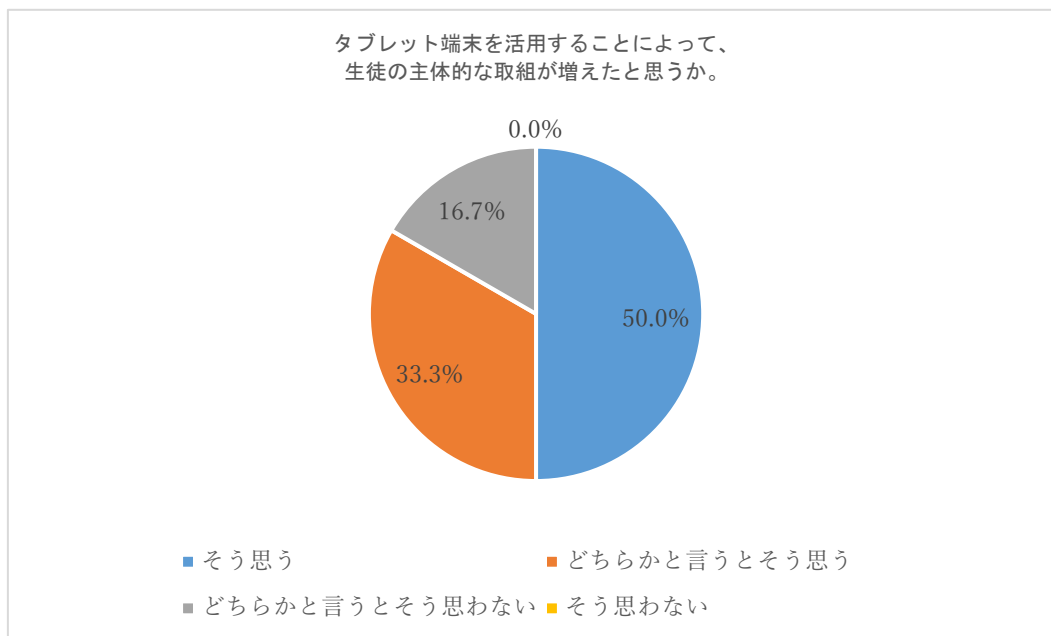
(9) 授業の中で、どのくらいの割合で利用したか。



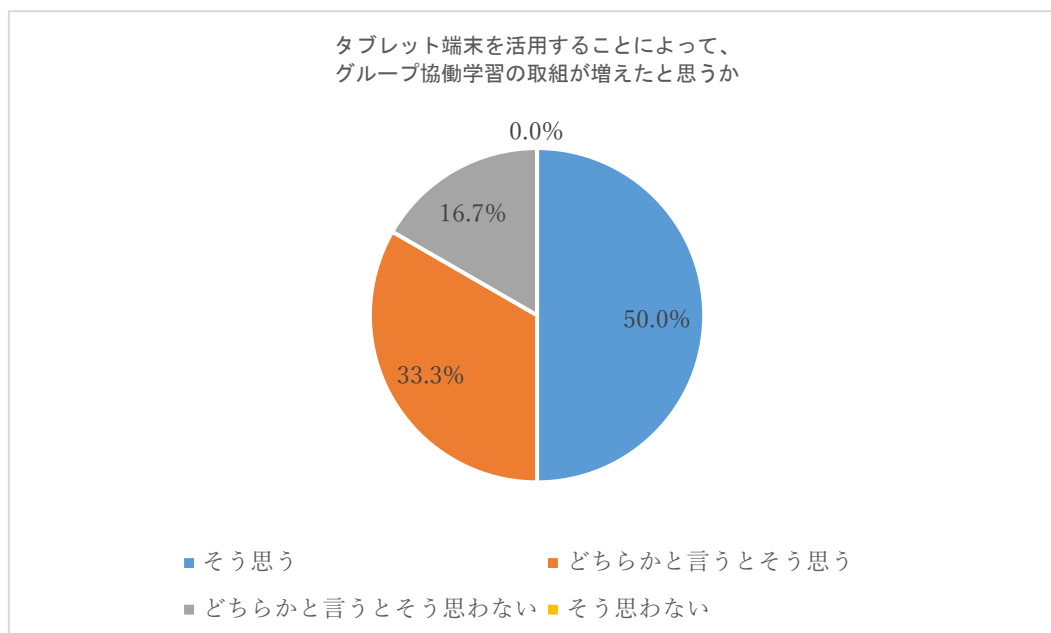
(10) ロイロノートを活用した項目は何か。【複数回答可】



(11) タブレット端末を活用することによって、「生徒のグループ協働学習の活動」が増えることが期待される。グループ協働学習の取組が増えたと思うか。



(12) タブレット端末を活用することによって、「生徒のグループ協働学習の活動」が増えることが期待される。生徒のグループ協働学習の取組が増えたと思うか。



(13) 電子黒板やタブレット端末を活用した授業が、生徒の学力育成に対して、どのような影響があると思うか。任意の回答であったが8名から回答があった。

- ・回答の共有や回収、資料の配付など大いに効果はあるが、一方で生徒の思考については注意散漫になるようであると感じている。また、物事を書くという行為を練習する際には紙で行うときに比べ、消すことのハードルが低いからか、雑な回答が目立つように思う。
- ・共有のスピードや授業中に教員が全体を動けることで一人一人に目を向けることができるようになった
- ・国語科教員にとっては、本文の展開をまとめるのにはプリントや黒板の方がやりやすいと感じ、生徒も紙の方がいいという意見が多数あった。そのため、資料や動画の提示・課題の提出については ICT が非常に便利であったが、それのみで授業をするのは難しい。両方の良さをうまく生かした授業を考えることが大切だと思う。
- ・黒板に書く時間を短縮することができるので時間を効率的に使うことができる。
- ・事前に授業内容を練り、組み立てて授業に臨むことができる。
- ・考えを共有することができる・生徒の表現力を高めることができる。
- ・電子黒板やタブレット端末の活用が生徒の主体的な学習を促すのではなく、指導と使い方の問題だと思う。
- ・文字や言葉を適切に使う力は明らかに低下している。成績優秀な生徒や、漢字テストで満点をいつもとるような生徒でも、驚くほど漢字の間違いや文章として適切でない表現が多い。考えたことを自分の内面で精査せずに出だし、そのまま発信する習慣がついているように見受けられる。これは言語や文化の衰退にも、他者の存在を考慮しない行動の助長にもつながると思う。
- ・個人的には、調べ物や情報の集約・管理にタブレットを使うことには大賛成だが、文字や文章を書いたり、授業内で対話をしたりするうえでタブレットを使いすぎるのは危険なような気がする。使うのであれば、リテラシーの向上を生徒に丸投げするのではなく、熟考・精査・推敲していくことの重要性を根気強く伝え、実感させていかなければならないと思う。
- ・壁打ち相手として生成 AI を積極的に使っていきべきだと思う。総合な探究の時間で困る生徒が多いのは、0 から 1 を生み出すのが苦手なためではないか。漠然としたテーマや疑問を投げかけ、徐々に深く狭く掘り下げていく活動を、AI も活用しながら行えるとよいと思う。
- ・物の管理が苦手な生徒にとっては、プリントをなくさずに済んだり、提出箱の締切がつねに表示されていたりと、ある程度助かる仕様になっているのではないかと考える。
- ・タブレットの導入は東大の酒井教授が研究結果から言っているように、生徒本来の思

考判断能力を向上させるという視点では、かえってマイナスになっていることがあると研究結果を真摯に受け止めるべきであろう。

- 活用例にしても、教科特性が大きく影響するものなので、如何とも単純にラジオボタン選択肢で回答を進めることでは、十分な意見発信とはならず、全科目をカバーするには至らないように思われる。
- SPPなどをSSH協力校として行っているときには、理数分野は全員を取り込むことは「尖った」方向性と相容れなかったため、いつも希望者を募る形で進めたが、グローバルは全生徒が対象でなければ意味がないと考えるので、学校全体のリテラシーの問題に帰着すると思う。
- 調べる方法が身に付くが、思考力の低下が懸念される。

4 結果の分析について

肯定的な意見と否定的な意見の回答割合を比較してみると、次の通りになる。

また、令和7年度から新たに「グローバル教育研究推進指定校」の指定を受けたので、令和6年度との比較を掲載する。

項目	年度	肯定的 (%)	否定的 (%)
(1) 「グローバル教育研究推進校」として実施した様々な教育活動は、グローバル教育人材の育成やグローバル教育の推進に役立っていると思うか。	令和6年度	80.0%	20.0%
	令和7年度	100.0%	0.0%
(3) 全教科共通のテーマ、「多様な文化や価値観の存在に気づき、相互理解の大切さを学び、他者への関心や共感力を育てる指導の研究」を設定したが、授業の中で取り組むことができたか。	令和6年度	70.0%	30.0%
	令和7年度	91.7%	8.3%
(4) 校内授業研究を通じて、自分の授業にフィードバックする内容があったか。	令和7年度	100.0%	0.0%
(5) 電子黒板を活用した授業をどのくらいの割合で利用したか。	令和6年度	95.0%	5.0%
	令和7年度	100.0%	0.0%
(6) 電子黒板を活用することによって、生徒の主体的な取組が増えたと思うか。	令和6年度	75.0%	25.0%
	令和7年度	75.0%	25.0%
(7) 電子黒板を活用することによって、生徒のグループ協働学習の取組が増えたと思うか。	令和6年度	75.0%	25.0%
	令和7年度	83.3%	16.7%
(8) タブレット端末を活用した授業をどのくらいの割合で利用しているか。	令和6年度	95.0%	5.0%
	令和7年度	91.7%	8.3%
(9) ロイロノートを授業の中で、どのくらいの割合で利用したか。	令和6年度	90.0%	10.0%
	令和7年度	91.7%	8.3%
(11) タブレット端末を活用することによって、生徒の主体的な取組が増えたと思うか。	令和6年度	75.0%	25.0%
	令和7年度	83.3%	16.7%
(12) タブレット端末を活用することによって、生徒のグループ協働学習の取組が増えたと思うか。	令和6年度	70.0%	30.0%
	令和7年度	83.3%	16.7%

(10) ロイロノートを活用した項目を次の中から回答する。【複数回答可】

※令和6年度の回答総数は 87

令和7年度の回答総数は 52

	割合 (%)	
	令和6年度	令和7年度
生徒への資料・動画等の配信	21.8%	17.3%
生徒からの回答の提出	18.4%	23.1%
生徒からの課題の提出	23.0%	17.3%
生徒の回答の共有	15.0%	17.3%
プレゼンテーション	16.1%	13.5%
シンキングツール	0.1%	0.0%
カメラ・録音機能の活用	4.6%	11.5%

本年度の回答者数が12名と少なかったため、令和6年度と比べ、回答に大きく変化があった項目に注目してみる。

(1)「グローバル教育研究推進校」として実施した様々な教育活動は、グローバル教育人材の育成やグローバル教育の推進に役立っていると思うか。との設問について、令和6年度までは「とても役立っている」が30%程度、「どちらかと言うと役立っている」が50%程度であったが、本年度は「とても役立っている」が約67%、「どちらかと言うと役立っている」が約33%の100%となった。海外の姉妹校等との交流やグローバル教育講演会、大学の留學生徒の交流会などにより、グローバル教育の推進に役立っていると考えられる教職員が多くおり、様々な教育活動を実施する意味があると考えられる。

(5)「電子黒板を活用した授業について、どのくらいの割合で実施しているか。」との設問については、年度を経るごとに肯定的な意見が増えており、本年度は「ほとんど毎回の授業で利用した」が100%となった。教職員の間で電子黒板を利用することを前提とした授業内容を組んでいると考えられる。

(10)「ロイロノートを活用した項目」との設問については、「シンキングツール」の利用者が0名になった。講習会などを通じて「シンキングツール」の使い方の紹介が必要であると考えられる。

(11)「タブレット端末を活用することによって、生徒の主体的な取組が増えたと思うか。」の設問については、3人に2人が「とても役立っている」と回答した。スタディサプリをはじめとする「自学自習」のツールが整ってきたことが大きな影響を与えたと考えられる。今後ともタブレットを使い生徒が予習、復習のできるツールを導入するとよいと考えられる。

今年度のアンケート結果からは、現在行っている内容を引き続き実施していくべきと考えられる。また、次年度の課題としては、まず、アンケートの回答を増やすために、1月中にアンケートに回答できるようにする。